KYORYOKU-DAIRA

令和８年度
学校組合立牧之原小学校
学校だより

重点目標 わたしも みんなも 大切にする子　【校長 田中正信】

車いすマークに駐車する親を見て、子供はどう思うのかな？

今年の夏休み、東名高速道路の浜名湖サービスエリアに立ち寄った際、ある光景を目にしました。車いすマークが描かれた専用の駐車スペースに一台の車が停まり、中からご家族と見られる方々（両親、小学校高学年ぐらいの男の子）が、元気にトイレへと向かって走っていかれました。

ふだん利用するスーパーなどでも、車いすマークの駐車スペースを目にする機会は多いと思います。この車いすマークは、「移動に困難を感じる方が優先して使える場所」です。対象となるのは、車いすを利用されている方だけでなく、杖を使って歩行されるご高齢の方、妊娠中の方、怪我などで一時的に歩行が難しい方なども含まれます。つまり、このマークは社会全体の“思いやり”や“配慮”の象徴と言えます。

サービスエリアで見かけたお子さんは、保護者の方が車いすマークの場所に駐車する様子をどのように受け止めていたでしょうか。もし「空いているから」「近いから」という理由で停める姿を日常として見ていると、それが当たり前のことと感じてしまうかもしれません。

学校では道徳の授業などを通して【思いやり】【規則の尊重】【礼儀】といった心を育んでいますが、子供たちにとって一番身近で影響力のあるお手本は、やはり身近な大人の姿です。



本校（牧之原小学校）の駐車場にも、来客用玄関や児童昇降口に近い場所に『車いすマーク』の駐車スペースが２台分設置されています。まさに移動に困難を感じる方が安心して使えるための大切な場所です。

保護者の皆様におかれましても、日頃の駐車の際には適切なご利用にご理解とご協力をいただき、子供たちに「思いやりの心を行動で伝える姿」を、引き続き見せていただければと願っております。

学びの風景から

４年生は、理科で『星のかんさつばん』の使い方を学びました。方位磁石で方角を確認しながら「今日の１９時夜の南の方角には、どんな星座が見えるかな」と、かんさつばんを見て星座を探していました。





２年生の算数は、三角形・四角形など形の学習です。手に持っているものは、三角形定規。

この日の授業は、教室内にある『直角を見つけよう』です。「見て、ここ直角だ！」「先生の服の模様に直角があった！」と三角定規の直角部分をそれぞれに当てながら、見つけることができました。









５年生は図工『ふれて伝えるストーリー』の題材でスポンジや、ラップの芯、輪ゴムなど様々なものを組み合わせ、立体的で「ふれる」ことのできる作品をつくりました。中には「京都旅行で歩いた道」を再現すべくプチプチ（気泡緩衝材）をずらして並べたり、富士山をイメージしてスチロールを組み合わせたりと、アイデアいっぱいの作品ができあがりました。







